

画は「意の表現に始まり、表現に終わる」と言われます。表現をするためには、技術が必要となり

中国蘇州教育學院芸術科水墨画  
名誉講師 藤原 六間堂

兵庫県水墨画協会は、来年20周年を迎えます。それぞれの皆様のおられる水墨画が次へとつながっていきます事を願って居ります。



ですが、技術のみに頼ってはいませんが、あくまでも「何を表現したいか」が重要です。作品を作っていく上で、表現したい主役、描かんとする感情に対して、脇役となる所はあくまでも主たるものが生きているように描いていかねばなりません。水墨画は相反する物を、対立させることにより、和合させていくものです。例えば重いものには軽い物、密

なるものには疎なる物といったように、主になるものに対して、脇役に何を、どのように描くかで、主は一層引き立つものになります。神戸市長賞 ▲ 千歳の段々 ▼

今回の応募作品を一点一点じっくり見入ると、作品の前で対峙した作者の様々な息遣いと、技法の巧が見えてきます。それぞれの作品に特徴があり、墨色が表情となって我々に語り掛けてくることを感じました。水墨画では単に形をきれいに描くではなく、墨色の美しさと筆のたちの表現は大切なことであり、洗練され画面に余白を生かして、見る人に想像させる世界でもあります。

白さと合わせて、視線を作品に長く留まらせることになり、作者が作品に込めた世界観と思いはと見る人の想像力を出合わせることが出来た作品であります。神戸市長賞 ▲ 千歳の段々 ▼

この作品は、子供の表情そして髪に光をあてる事で、艶やかさを表現すると同時に、その子供の将来への輝かしさまで感じ取れます。左手は幼さ、右手はしっかりと愛情を受け止めている様子を表現したいと思われま

全体としての濃淡のバランス、画面に対する大きさのバランスもとれており、背景に対し子供を大きく描く事により、大きく育って行ってほしいという愛情が表現されていると思います。また子供の着物の柄も、動きのあるところは淡墨にするなど、細部にも気を遣ってある作品でした。

今回の公募作品を拝見し、表現したい気持ちはどの作品からも感じることができました。しかし、脇を描きすぎて主を生かしきれいななかったり、どれも濃墨で描いてしまい、主と脇がわからなくなってしまう等は、残念に思いました。「何を表現したいか」に立ち戻りながら構成を練るといいで

この作品は、安定感を取った画面に松をしつかり描き、淡墨で表現され、余白を生かした秀作であります。画面に白く浮かび上がったくる幹の部分、松葉と背景の濃淡のニュアンスが、黒くしつかりとした輪郭線や霧を引き立たせて、画面にすいこまれるような感じになりました。そのことで、大きくない画面にシンプルなイメージにもかかわらず、その構図的面

励みとなりました。

兵庫県水墨画協会大賞



「龍躍千淵」  
蔵本 千波



兵庫県知事賞



「高砂」  
藤原 京華



神戸市長賞



「千歳の段々」  
池田 裕子

受賞者の作品への思い

川西市 蔵本 千波

来年も皆様の力作を期待しております。

この作品は、日々の生活の中の情景を画面にしました。墨色がきれいに表現され、とてもかわいいう品となりました。水墨画の面白さを発見するという体験は新鮮で、現代に生かして秀作です。

大自然の持つ神秘さ、雄大さ、荒々しさ、厳しさ、又、包み込むような優しさも表現してみたく思いついて描きました。

これからも「水と墨と紙」だけで描ける水墨画、気力、体力のある限り継続をと思ひます。表彰式典終了後に行われたギャラリートークでは皆様様より貴重なご感想やご講評を賜り、今後の